

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 7 No 11

7 6 号

平成11年11月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

インフルエンザを考える

院長

今年は、インフルエンザの予防接種に対する関心が高いので、インフルエンザについて考えてみます。毎年インフルエンザが流行すると老人ホームなどでの肺炎が問題にされます。その時決まってマスコミなどで報道されるのが、インフルエンザの予防接種です。

皆さん御存知のことと思うので、症状については軽く触れるにとどめます。発熱と呼吸器症状が特徴で、高熱が続く、咳がひどく、年長児では咽喉の痛みや節々の痛みなどが特徴です。カゼの仲間と考えてもいいのですが、肺炎の合併率が高く重症化することがあります。毎年老人の肺炎と乳幼児の脳炎・脳症が大きな問題され、重症度や生命的予後を見ると単なるカゼとは違うと考えたほうがいいでしょう。

治療に関しては、昨年からアマンタジンが用いられ、一定の効果を上げています。しかしA型にしか効果が無いことや、ウイルスの耐性化が起りやすいなどの問題点があります。今年新しい吸入による治療薬が認可されようとしています。しかし認可が遅れる可能性や自分で吸入できる年齢しか使えないなど、成人や年長児では期待されていますが、乳幼児では実用的ではありません。

脳炎とか脳症とは、いったいどんなものなのでしょう。最近になって特に増えたということではなく以前からもあったもので、検査法の進歩にともない診断される例が多くなってきました。今年1～3月では217人の脳炎・脳症がみられ、58人が死亡しています。頻度は明らかではありませんが、数万人に1人程度と考えられています。発熱から比較的短い期間に発症し、けいれんや意識障害が出現し急速に悪化することが特徴的な症状です。乳幼児がほとんどで、全体の8割以上が5歳までに発症していることも特徴です。発熱してから症状が出るまで1～2日と短いため、アマンタジンなどでも治療が追いつかないことがほとんどです。ひきつけたり意識がおかしいときは、速やかに受診することを勧めます。

現時点では、対症療法以外の決定的な治療法が無いため、予防することが大切と考えられています。どうも、昔から言われているようながいや手洗いなどだけでは、予防効果は少ないと考えられています。では、ワクチンはどうなのでしょう。流行の予測をして、ワクチンを混合して作られています。ですから流行の予測が全く外れると、効果が無いことも確かです。しかし最近10年間はワクチンと流行したウイルスは一致し、比較的高い予防効果が認められています。こどもの予防に関するデータはないのですが、成人での全体的な有効率は70～90%と報告されています。インフルエンザ型によって有効率は変わり、A型に対しては80%前後で、B型は50%程度とされています。副反応（副作用）はどのなのでしょう。時々副作用が強いという話を聞きますが、現在使用されているものは世界的にみてもかなり安全です。最も多いのがワクチン接種部位の発赤、硬結、腫脹で10%程度にみられます。今年から内容が変更され、局所反応も少なくなると期待されています。また全身的な副反応は少なく、ウイルスの増殖に鶏卵を用いますが卵アレルギーの危険もほとんど無いとされています。中枢神経系の副反応例がわずかに報告されていますが、因果関係は明らかではありません。ワクチンの説明書（添付文書）に急性散在性脳脊髄膜炎と言う難しい病名が出てきます。中枢神経系の病気はワクチンに関係ない場合にもみられるだけでなく、他のワクチンでも報告されています。このような中枢神経系の副反応の頻度はかなり低く100万人に1例以下と推測されています。また一つ、重要な事実があります。ワクチン接種者には、脳炎や脳症の患者がいないということです（この時点では）。



この記事の目的は、ワクチン接種を強制するものではありません。この機会に、もう一度インフルエンザという病気について考えてみましょう。

臨時休診のお知らせ

日本小児科学会地方会参加と従業員慰安旅行および院内改装のため

11月12日(金) 午後 休診
11月13日(土) 全日 休診

となります。御理解の上、御協力お願いいたします。

11月のお知らせ

・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～
栄養士担当
・在宅休日当番
11月21日(日)
御利用下さい。



読者の広場

今月もまた電子メールでの投書を紹介します。泉区の伊藤さんから頂きました。「友達にいいよと聞いて川村先生のところに行ってから、本当にこんなにいい小児科(先生)があったのかと感動しています。私の子供は上の子が幼稚園に行ってから交互に風邪をひき、毎週どっちかが熱を出して小児科通いと看病と夜泣き・・・などで心身ともにつかれはてたところ。先生と初めてお話をさせていただいたとき本当に安心してうれしかったです。薬もあつてるみたいで、しっかりなおるし感謝しています。私は運転できないので主人のいる土曜日くらいしか通えないのが残念ですが、インターネットで川村先生の医療情報がみれるのもうれしいです。でもいい小児科は評判になるとみんな殺到するし、先生も生身の人間ですから母親クラブやパソコンなどのボランティアまでされていると(本当にありがたいですけど)お身体のほうも心配です。何かいい方法があったらいいのにとおもいます。(こうやってメールを読んでも先生の時間をとってしまいますね すいません)でも感謝の気持ちでいっぱいのことを伝えられたのでメールをかかせていただきました。これからもお身体に気をつけて心身ともにフォローできる先生でいてくださいね。」。また泉区のとらさんからは投書をいただきました。「かわむら先生へ。いつも助けていただきありがとうございます。この間は、てんかんなどという言葉聞いて、実は家事も手に付かないほど、落ち込んでしまっていたのです。かわむら先生が“大丈夫”と言ってくれた時、涙が出そうになる位、ホッとしました。またまたかわむら先生に、すぐわれた私です。改めて感謝申し上げます。」このようなメールをいただくと、忙しい中いろいろなことをやっていたよかったです。いつも同じ言葉で申し訳ないのですが、こんなお母さん達に支えられているのです。他にも青葉区の田口さんからも頂きましたが、紙面の都合で省略します。



9月30日(木)に、第4回『お母さんクラブ』が開催されました。「あなたは大丈夫? 救急蘇生」には、総勢31名の参加がありました。今回は非会員のお母さん達12名も出席しました。消防署員の鎌田さん(患者さんのお父さんです)に、119番通報の仕組みから救急蘇生まで、面白いお話をさせていただきました。乳児と幼児のダミー人形を使って、本番さながらの体験ができたのではないのでしょうか。非会員の宮城野区の小林さん頂いたの印象記です。「身近で、今まで救急の人に出くわしたことが無かったので、とても勉強になりました。“人間の呼吸が6分以上止まると死ぬとか。119番はもよりの消防署ではないので10分以上も時間がかかるなど”いろいろな話が合って、完ぺきではありませんが、救急車が来てくれるまで、おどおどしないで対応したいと思います。そのためにもまた今回のような機会があれば、出席したいと思います。ありがとうございました。」。当日NHK出版の方が取材に来ました。当院の育児支援の取り組みと『お母さんクラブ』の内容が、雑誌「すくすくネットワーク」の1月号で紹介される予定です。乞う御期待。

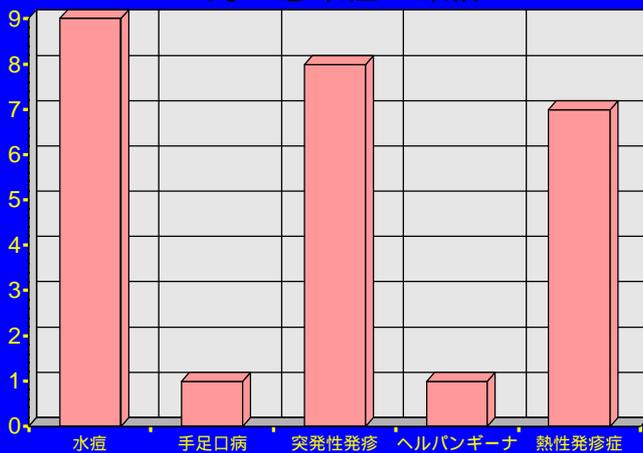
宮城野区の井上さん、佐藤さんから、クリニックに絵本を寄贈していただきました。皆さんも、大切に扱って下さい下さい。ありがとうございました。

『お母さんクラブ』のお知らせ

第6回の集まりが、11月18日(木)14:00~福沢市民センターで開催されます。ちいさき花幼稚園の京園長先生の「現代幼稚園考」です。幼稚園での子供たちを通して、育児について考えてみます。また時間をお借りして、「インフルエンザを考える」も同時に開催します。インフルエンザの問題点や対処法を考えてみたいと思います。

特に流行している感染症はありません。今月も流行性耳下腺炎はみられていません。そろそろ流行が止まったのでしょうか。水痘が、少し増加しているようです。またグラフには示してありませんが、喘息が多くみられました。おとなも子どもも、咳の止まりにくい風邪も流行っているようで、夜間の咳で苦労するお子さんが目立ちます。

10月の感染症の集計



育児雑誌『ひよこクラブ』に載ります。

『ひよこクラブ』1月号の「夜泣き」の特集を担当します。12月15日発売予定です。お困りの方、興味のある方は、書店でどうぞ!!。

インフルエンザの予防接種について

11月からインフルエンザの予防接種を受け付けています。足りなくなる予想もありますので、希望する方は早めにご予約ください。2~4週間隔で、2回接種が必要です。任意接種なので料金がかかります。1回3000円+消費税。

編集後記

臨時休診で御迷惑をおかけします。スタッフともども温泉につかって、リフレッシュしてきました。帰ってきて、役立つような何かを掴むことが出来ればと、思っています。います。そろそろカゼの流行の時期です。気をつけましょう。

